

製品安全データシート

作成日：2011年02月22日

改訂日：2024年11月08日

確認日：2024年11月08日

1. 化学品及び会社情報

製品名
[構成品名]
他の特定手段
供給者の会社名称、住所及び電話番号

フルオロセル RET

シスメックス株式会社
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
シスメックス株式会社 テクノパーク
〒651-2271 神戸市西区高塚台4丁目4番地の4
TEL：(078) 991-1911
TEL：(078) 991-1911
臨床検査測定用
推奨用途以外への使用は禁止する

緊急連絡電話番号
推奨用途
使用上の制限

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類
物理化学的危険性
健康に対する有害性
環境に対する有害性
GHS ラベル要素
絵表示

引火性液体 区分3
急性毒性（経口） 区分4
特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分2
区分に該当しない



GHS07



GHS02



GHS08

注意喚起語
危険有害性情報

警告
H226 引火性の液体および蒸気
H302 飲み込むと有害
H371 臓器の障害のおそれ

注意書き
安全対策

P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

応急措置

P308 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡する事。

保管

P311
該当しない

<p>廃棄</p> <p>GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の有害危険性</p>	<p>P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p> <p>情報なし</p>
<p>3. 組成及び成分情報</p>	
<p>化学物質・混合物の区別</p> <p>成分の化学名</p> <p>濃度又は濃度範囲</p> <p>CAS 番号</p> <p>化審法 官報整理番号</p> <p>安衛法 官報整理番号</p> <p>成分の化学名</p> <p>濃度又は濃度範囲</p> <p>CAS 番号</p> <p>化審法 官報整理番号</p> <p>安衛法 官報整理番号</p> <p>毒物・劇物の別</p>	<p>混合物</p> <p>エチレングリコール</p> <p>92.04 W/W %</p> <p>107-21-1</p> <p>2-230</p> <p>別表第 9-75 号</p> <p>メタノール</p> <p>7.96 W/W %</p> <p>67-56-1</p> <p>2-201</p> <p>別表第 9-560 号</p> <p>劇物（法律又は政令番号：法律別表第 2 の 83）</p>
<p>4. 応急措置</p>	
<p>必要な応急処置の説明</p> <p>吸入した場合</p> <p>皮膚に付着した場合</p> <p>眼に入った場合</p> <p>飲み込んだ場合</p> <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状</p> <p>応急措置をする者の保護に必要な注意事項</p>	<p>被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>医師の手当、診断を受けること。</p> <p>皮膚を速やかに洗浄すること。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>医師の手当、診断を受けること。</p> <p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>口をすすぐこと。</p> <p>医師の手当て、診断を受けること。</p> <p>情報なし</p>
<p>5. 火災時の措置</p>	
<p>適切な消火剤</p>	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、耐アルコール性泡消火剤。</p> <p>大火災：散水、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。</p>

<p>使ってはならない消火剤</p> <p>火災時の特有の危険有害性</p> <p>消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置</p>	<p>棒状注水</p> <p>情報なし</p> <p>消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置</p>	
<p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置</p>	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p> <p>関係者以外は近づけない。</p> <p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。</p> <p>作業者は適切な保護具（8. 暴露防止措置及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。</p> <p>風上に留まる。</p> <p>低地から離れる。</p> <p>立ち入る前に、密閉された場所を換気する。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。</p>
<p>封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	<p>環境中に放出してはならない。</p> <p>危険でなければ漏れを止める。</p> <p>漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。</p> <p>蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。</p> <p>除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。</p> <p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p>	
<p>取扱い</p> <p>安全取扱注意事項</p>	<p>使用前に使用説明書を入手すること。</p> <p>すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。</p> <p>周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。</p> <p>容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。</p>
<p>衛生対策</p>	<p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p>
<p>保管</p> <p>安全な保管条件</p>	<p>2～35℃で直射日光・粉塵等を避けて保管する（凍結禁止）。火気厳禁。強酸化剤、強酸、強塩基から離して保管する。</p>

安全な容器包装材料	密封可能な容器
8. ばく露防止及び保護措置	
<p>許容濃度等</p> <p>日本産業衛生学会 ACGIH</p> <p>設備対策</p> <p>保護具</p> <p>呼吸用保護具</p> <p>手・皮膚の保護具</p> <p>眼、顔面の保護具</p> <p>特別な注意事項</p>	<p>200ppm (260mg/m³) (皮) (メタノールとして)</p> <p>TWA-STEL C 100mg/m³(H) A4</p> <p>(H) Aerosol only (エチレングリコールとして)</p> <p>TWA 200 ppm(H)</p> <p>STEAL 250ppm(Skin) (メタノールとして)</p> <p>防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。</p> <p>必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。 換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。 保護手袋を着用すること。眼の保護具を着用すること。 眼の保護具を着用すること。 必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型） 顔面用の保護具を着用すること。</p> <p>衛生対策</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。</p>
9.物理的及び化学的性質	
<p>物理状態</p> <p>色</p> <p>臭い</p> <p>融点／凝固点</p> <p>沸点又は初溜点及び沸騰範囲</p> <p>可燃性</p> <p>爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界</p> <p>引火点</p> <p>自然発火点</p>	<p>液体</p> <p>青色透明</p> <p>なし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>46.5°C (タグ密閉式)</p> <p>データなし</p>

分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に 100%可溶
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.09 (20/4°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(放射性、かさ密度、燃焼持続性)	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤、強塩基と反応する。
避けるべき条件	加熱、火花、裸火などの着火源。
混触危険物質	強酸化剤、強塩基。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、その他刺激性/有害性のある煙霧や気体。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラット/経口 LD ₅₀ 4000mg/kg (エチレングリコール)、2500mg/kg (メタノール) であり、混合物の推定 LD ₅₀ が 3820mg/kg
経皮	データ不足のため分類できない。
吸入	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激 (ウサギで、555mg/open,mild) 且つ濃度 10% を超えている。(エチレングリコールとして)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	眼 (ウサギ、1440mg/6h、Moderate) (エチレングリコールとして)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	(メタノールとして) 妊娠マウスの器官形成期に吸入ばく露した試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ [PATTY (5th, 2001)]、さらに別の吸入または経口ばく露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている [EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)]。メタノールの生殖への影響に関して、証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒトのデータは欠如している

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

が動物による影響は明確な証拠があることから、ばく露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性がある」と結論されている〔NTP-CERHR Monograph (2003)〕。

（エチレングリコールとして）ヒトについて、「誤飲後 34 日以降に意識障害、痙攣、昏迷状態がみられ、血液化学的検査では尿素窒素、クレアチニン及び尿酸が増加、尿検査で蛋白尿及び血尿がみられ、腎障害が認められている。腎生検で尿細管に組織学的変化がみられている。また、肺の軽度なうっ血がみられた」「急性影響は 4 段階に分けられる。まずばく露後 30 分から 12 時間後に起こる中枢神経系への作用、次にばく露 12-36 時間後に起こる心肺系への影響、さらに第 1 及び第 2 段階で死亡(エチレングリコール)を免れた者にみられる腎臓障害、そして中枢神経系の変性である。」との記載がある。

（メタノールとして）ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている（DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997)）。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載（DFGOT vol.16 (2001)）もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている（DFGOT vol.16 (2001)）。標的臓器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もある。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

（エチレングリコールとして）ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性的変化」との記載がある。

（メタノールとして）ヒトの低濃度メタノールの長期ばく露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述〔EHC 196 (1997)〕や職業上のメタノールばく露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述〔ACGIH (7th, 2001)〕。

誤えん有害性
その他の情報

データ不足のため分類できない。
情報なし

12. 環境影響情報	
生態毒性 水生環境有害性、短期(急性) 水生環境有害性、長期(慢性) 残留性・分解性 生態蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性 その他の有害性	ニジマス 96h LC ₅₀ =47mg/L (エチレングリコールとして) 情報なし 情報なし 情報なし 情報なし 情報なし 情報なし
13. 廃棄上の注意	
化学品（残余廃棄物）当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 残余廃棄物 付着している汚染容器及び包装	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制 航空規制情報（ICAO/IATA） 国連番号 品名（国連輸送名） 国連分類（危険有害性クラス） 容器等級 海上規制情報（IMO） 国連番号 品名（国連輸送名） 国連分類（危険有害性クラス） 容器等級 海洋汚染物質 MARPOL73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	ICAO/IATA の規定に従う UN 1993 FLAMMABLE LIQUID, N.O.S 3 III IMO 規定に従う UN 1993 FLAMMABLE LIQUID, N.O.S 3 III 情報なし 情報なし

国内規制	
航空規制情報	航空法の規定に従う
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う
陸上規制情報	消防法の規定に従う
輸送又は輸送手段に関する特別の安全策	輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

15. 適用法令	
薬機法	非該当
安衛法	該当：エチレングリコール（ラベル表示・SDS 交付義務対象物質 政令番号：令別表第 9 の 75） 該当：メタノール（ラベル表示・SDS 交付義務対象物質 政令番号 令別表第 9 の 560/第 2 種有機溶剤等、政令番号：42）
化管法	非該当
毒劇法	該当 メタノール（劇物 法律又は政令番号：法律別表第 2 の 83）
化審法	該当：エチレングリコール（2 類、官報整理番号 2-230） 該当：メタノール（2 類、官報整理番号 2-201）
水質汚濁防止法	非該当
航空法	該当：メタノール（引火性液体（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1））
船舶安全法(危険物船舶運送及び貯蔵規則)	該当：メタノール（引火性液体類（危規則第 3 条危険物告示別表第 1））
消防法	該当：エチレングリコール（第 4 類引火性液体、第三石油類水溶性液体）
スイス連邦法 揮発性有機化合物の特別税法	非該当

16. その他の情報	
その他の情報	本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。 ここに記載された情報は、シスメックス株式会社の最善

略語

データの主要な文献参照と出典

の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。

化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律
NITE GHS 分類公表データ